

中国人興亜建設隊

物故者の33回忌法要(中丸の共同墓地)

中国人興亜建設隊物故者33回忌法要ならびに無縁仏慰靈祭が8月20日市内中丸の共同墓地で、しめやかに営なされました。この日、会場には齊藤、渡辺、勝又国會議員をはじめ地元選出の県会議員や地元住民多数が列席しました。まず渡辺市長、中井市議会議長から慰靈のことば、高田導師の祭文などがつづき、読経、焼香が行われ、53名の犠牲者の冥福を祈りました。

中丸区がまとめた「中国人興亜隊物故記」のあらましによれば、次のとおりです。

この中国人の犠牲者たちは、昭和19年6月、当時、陸軍の命令により田子浦飛行場を建設するため熊谷組が工事を請負、地域住民200余戸の強制移転があって建設作業が行われました。このとき主な労働力は徴用労務者、朝鮮人労働者と一部の捕りよが使われ、この捕りよが実は強制連行された中国人であった。この人たちとは、昭和19年10月8日と23日の2回にわたって、この田子浦飛行場に送られ、ここで興亜建設隊に編入

【写真・慰靈のことばをおくる渡辺市長】



され、毎日12時間、滑走路づくり等の重労働にあけくれていました。

また、食事は、朝は雑炊、昼と夜はマントウ（里イモ粉、穀粉とメリケン粉をませたもの）2個の非常に粗末なものだった。このようなきびしい生活に堪えかねてゲートルで自殺する中国人もあったという。

富士市での死者は53名で死因は、肺炎、胃腸炎が目立ち連日の肉体労働と冬の寒さに耐えるだけの最低限の衣食住さえ保障されなかった。死

亡者は仲間たちが宿舎近くで火葬にし、この共同墓地に埋葬しました。

昭和28年ころ全国各地で中国人の犠牲者の遺骨送還が行われ、同29年5月17日実行委員立会いで五軒屋、新浜部落有志の手によって遺骨が発掘され、その場でダビに付され市内福泉寺において慰靈祭が行われました。遺骨は同年11月、中国紅十字代表の李徳全女史が来日し、11月16日興安丸にて送還、同20日ターキ着、天津で中国側に引渡されました。



市営住宅周辺の雑草やゴミを取りきれいにしてください

(こえ) 私の家は、市営住宅のすぐ近くにあります。最近、市営住宅の敷地周辺に雑草が伸び、ゴミも多く見受けます。当然そこに住んでいる人たちが話し合って周囲をきれいにすることが望ましいと

思いますので市で呼びかけてください。

(湯沢平 Iさん)

(こたえ) 市営住宅のみなさんへ
市営住宅入居者のみなさん。周辺に住んでいる多数の方々に負けないよう、自分たちの周囲を自分たちの手で美しく、そして住みよい環境にするよう心がけましょう。

(市建設部管理課)

ゴミはその地区の決められたゴミ置場へ

(こえ) 最近私の町内のゴミ置場へ、他町内の通勤者と思われる人達が、途中で車を停めゴミを勝手

に置いていって困ります。なんとか注意を呼びかけてください。

(神谷 Hさん)

(こたえ) ゴミは必ず決められた場所に出しましょう。

燃えるゴミ、燃えないゴミは、各町内、各班等で場所を決められて出していただいておりますが、最近、他地区の集積場所に出勤途中に捨てていく人がおり、非常に迷惑をしているところがありますお互いに決められた場所、決められた日時を守り、迷惑をかけないようにしてください。

(市環境部清掃管理課)